

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291600122		
法人名	社会福祉法人 ガイアの杜		
事業所名	グループホーム あいりん 壱番館		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	令和 6年 2月 13日	外部評価結果確定日	令和6年6月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 6年 5月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のつながりを、人と人とのふれあいを大切に」の理念に基づき、日常生活の支援をさせていただいています。色々な場面での言葉かけや、気分転換のはかり方を年間の行事を通じて取り組んでいます。「笑顔がいっぱい咲きますように」をテーマ掲げて表情豊かに暮らす雰囲気作りを心がけ、一人ひとりがその人らしく暮らせる寄り添った支援に力をいれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念“心と心のつながりを、人と人とのふれあいを大切に”を基盤に、地域交流や事業所内行事など精力的に取り組んでいる。また、“笑顔がいっぱい咲きますように”をテーマに掲げ、在宅での暮らしの継続を重視しており、毎日の入浴支援は高く評価できる。また、手作りの料理や利用者も野菜の皮むきやおやつ作りを行う他、法人総出で楽しむ運動会など多彩な行事も企画している。家族に向けては、月1回の法人だよりや年4回手紙を送付しており、その中に行事や普段の生活の様子など利用者の表情豊かな写真を掲載している。また、LINEの活用や家族との外出、外泊、居室内面会も再開する等、丁寧な支援が確認できる。法人の強固な組織力により、地域交流の輪を広げ、利用者の笑顔あふれる暮らしを支援する事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はリビングの壁に職員が意識できるように掲げてあり、共有し日々実践への取り組みとしてつなげている。	法人理念を事業所内に掲示し、職員の意識を高めている。主任が新人職員に理念の説明を行っている他、理事長が利用者や家族に関する詳細な留意事項を全職員が目を通すよう回覧し、周知を図っている。法人理念を基盤に、在宅生活の継続に向けた自立支援や地域交流、事業所内行事など精力的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍となり、以前と比べ交流する機会を断念せざる負えないことが多かったが、その中で散歩時など挨拶を交わしてもらえるようにさせていただいています。月一神父様がこれ、信者の方はお祈りの場をもうけてます。	母体法人では、ふるさと応援隊の活動を行っており、清掃活動や龍踊りの披露、神社の行事参加等、職員が役割を担い活動している。利用者も各種行事に参加している他、散歩時には地域住民と挨拶を交わし顔なじみである。地元の小中学生の職場体験も受け入れるなど、コロナ5類移行から1年を経て、地域交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍となり、介護方法など地域に活かせる場は開催してない。自治体から依頼があった際清掃活動協力したり、祭り参加やイベントでの会社独自の龍踊を披露したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍となり、会議の実施は行っていない。ただサービス向上の為、利用者のご家族に、連絡や訪問の際現状をお話した上で意見を聞いております。	コロナ禍により書面会議を令和5年2月、7月実施しているが、それ以降の実施には至っていない。これまでの書面会議では運営推進委員である民生委員や郷長、行政職員、家族代表に向けて、議事録にアンケート用紙を添付し、意見や感想を得ているが、会議開催は滞っている状態である。	省令である確実な年6回の会議開催に向けた取組が望まれる。今後は対面会議での再開も予定していることから、運営推進委員に働きかけ、確実に実施していくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者の方とは必要な時に随時連絡を取り合っている。コロナ接種など連絡、連携にて訪問、設営スムーズに対応できた。今回は保健所とのやり取りが多く、研修に参加したり、実務を話し合ったりした。	行政から案内がある研修には職員が参加している。年1回担当課職員による訪問がある他、今年度はコロナ予防接種等、協力を得ている。行政の窓口には主任、介護支援専門員が手続きに向向しており、日頃から連絡を密に取り、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、居室には鍵を掛けない、行動制限のないように見守り、安全確保しております。研修を毎年実施している。事例なし。	身体拘束等の適正化のための指針を整備している。毎月の職員ミーティングにて、身体拘束廃止委員会及びケア会議を設け、全職員で検討し、協議を重ねている。年2回は内部研修にて言葉の拘束等理解を深めている。帰宅願望のある利用者には、職員が衣類を取りに自宅に付き添うなど、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ内で共通して拘束についての知識が認識できるよう話し合い、指導に取り組んでいます。言葉遣いや態度などスタッフ同士で注意し合うよう心がけています。研修を毎年実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を開き学ぶ機会を設けています。現在一人利用されている方おり、担当の方と月一回話をしてしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項は丁寧に説明し、趣旨をご理解いただくよう務めています。利用中に料金の変更あれば随時連絡させていただいてます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族には状況報告を行い、意見、要望があれば取り入れ実践に務めています。	事業所は、苦情相談機関があることを契約書に明文化し、家族に伝えている。職員は、4ヶ月毎の手紙、SNSや電話に加え、面会時などに利用者の様子を伝えながら信頼関係を築き、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。家族の意見を反映して、神父の訪問や個別に写真を送る等の事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者からは回覧にて運営対する思いが届き、スタッフの意見などは汲み取るようにしている。月一幹部会議、職員ミーティング、あり。グループホーム連絡協議会に参加している。	主任は、ユニット会議やミーティングの場に限らず、普段から職員の意見を聞く機会を設けている。必要に応じ、職員の個人面談を行い、個別の意見を把握している。職員の意見は、必要な物品購入や業務内容の見直しなどに反映しており、働きやすい職場環境となるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況を考慮し条件の整備に務めている。希望の休みに添えるよう毎月希望を聞く。資格制度あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で縮小されたり、中止されたりもあるが、社内で定期的研修などで知識を深め成長できるように取り組んでいる。今回外国人雇用し研修している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で意見交換を行いサービスの質の向上に務めている。同会社の別事業所の見学、話し合いを含めた交流をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学をして頂き、要望や質問に対応して不安がないように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問・ホーム見学して頂き、コミュニケーション、傾聴を大切に意見、要望などが相談しやすい関係作りにつとめています。本人の要望に答えられるよう努力しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向をしっかり受け止め納得できるサービスを利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの習慣を尊重し、本人様の思いに寄り添った関係を築いて支援している。介護員と一緒にできる作業は同じ立場として不快に思われないよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近状報告にて健康状態や普段の生活の様子、ご本人の思いを把握して頂きお客様の生活が豊かなものになるよう協力いただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会制限あるが、テレビ電話やメール、定期的に手紙にて関係を保つようしています。ご希望であれば美容室にもいかれている方もいます。	事業所は、馴染みの人や場との関係継続を重点取組と定め、支援に努めている。利用者や家族から生活歴など情報提供を受け、基本情報にまとめている。5類移行後は、家族の訪問や外出、外泊は可能である。島外家族の帰省に合わせ利用者を自宅へ送り届けたり、馴染みの店で買い物するなど、本人に合わせて外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様のひとりひとりの性格、疾患を把握し職員が潤滑剤となりえるよう関わりをもつように支援しています。一緒にアクティビ、体操参加して頂くよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談に応じるよう伝えている。お会いした際は、言葉をかけたりし関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で意向・希望を引き出せるよう意識している。困難な方は言動、表情から思いを読み取るよう務めている。	職員は、利用者がどのように暮らしたいか等を会話から把握している。リビングで寛いでいる時や入浴など1対1の支援時に、利用者が表出した要望を汲んでいる。会話が困難な場合は筆談や表情から本人本位に対応を検討している。職員は利用者の満足感は、豊かな表情に反映されていると考え、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からききだしたり、本人様との会話通してこれまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を記録し、毎日職員間の連携、報告を常に忘れないようにしている。バイタルチェック、排泄表、食事摂取状況にて異変に気づけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人様の意向を尊重し、心身の状態、日々の生活の様子を把握し、現状に即した計画を作成している。定期的なミーティングの中で計画の見直し、検討、支援方法の改めなどおこなっている。	長期12ヶ月、短期6ヶ月の介護計画を作成している。毎月職員ミーティングでカンファレンスを行っている。家族には、面会や病院受診同行時、電話により意向を確認し、計画に反映している。実践状況は、生活記録に目標に沿った内容を記している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に即したケアの実践状況や経過、日々の様子から気づきを個別カルテに記録し、スタッフが常に見直し、確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の代行や通院など、ご家族が対応できない所の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館を活用し、本人様の興味、趣味にあった本など借りてます。町の体育館を借りて運動会を行いました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医に現状の情報を提供し、適切な医療を受けられるように支援している。また健康管理、異常の早期発見ができるよう連携につとめている。ご希望があればご家族同行受診している。	これまでのかかりつけ医を継続することは可能であるが、現在は、全利用者が協力医をかかりつけ医としている。受診時は職員が同行しており、受診結果を家族に報告している。希望があれば家族も通院同行している。夜間緊急時等も主治医と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を設け、情報を把握し、異常があった際は、受診に動いて頂いてる。看護医療に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお客様が適切な医療、看護が受けられるよう情報提供書を作成している。入院中は定期にご家族の変わりに洗濯物を取りに伺うようにしている。退院時にはお客様の現状を把握し、病院側から情報を得て対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、主治医と話し合い、今後の終末期に向けた方針を取り決め、共有し支援している。	事業所は、看取りを行わない方針である。利用開始時、看取りに関する事前協議書、重度化(看取り)の対応指針を基に説明し、家族から同意書を得ている。その際に、嚥下状態の低下がみられると、医療機関への入院等が必要となる旨も伝えている。これまで在宅に戻り、看取り期を迎えた事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し熟知徹底するとともに研修の中で実践に早期対応できるようにしている。AEDの設置し緊急時の対応ができるよう緊急救命士の資格保持者が指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的な防災訓練の実施や近隣住民の方へ協力体制を築いている。	年2回総合避難訓練を実施し、内1回は消防署が立会い、助言指導を受けている。夜間想定や地域住民による誘導、見守りを想定した訓練も実施している。年2回自然災害訓練もあり、法人内の他施設を避難場所と定め、実際に避難までの所要時間を計測し備えている。現在、食料備蓄を見直し中である。	法人内の協力体制を構築していくことはもちろんであるが、有事の際に事業所内での水や食料等の確保も必要である。利用者の安心安全のために、事業所としての万全な備蓄体制を構築していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の気持ちを尊重し、お客様の権利・人権を常に意識して適切な言葉遣いと対応に務めている。	職員は、利用者に敬意をもって接しており、名前の呼び方、自尊心へ配慮して支援している。また、利用者が排泄で失敗しないケアを検討し、実践している。個人情報とは所定の場所で管理し、職員に守秘義務の周知徹底を図っている。ただし、広報等で掲載する写真使用の同意は、口頭での確認で留まっている。	広報誌、ブログ等への利用者の写真使用については、口頭確認だけでなく、万が一に備え書面での同意を得ることが望まれる。書面の整備に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はお客様の思いを表現できる自己決定できる環境作りを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のひとりひとりの趣味や生活のペースを把握してその人らしい暮らし、居心地のいい生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に衣類は選択できるよう言葉をかけている。こだわりや好み、これまでの習慣を尊重し、寄り添いながらいっしょに選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の嗜好にあった料理や季節感のある食事が提供できるよう務めている。彩りを工夫し、お客様それぞれにあった食事形態で対応している。できる方はいっしょに手伝ってもらったりしている。	職員は、利用者の嗜好や地元の食材を使った献立を考え、各ユニットで調理を行っている。利用者が食べてみようと思えるように、彩りや食事形態を工夫している。お節や七夕などの季節行事に合った献立や誕生会の特別メニュー、おやつ作り、そうめん流しなど、食を通して皆で楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様ひとりひとりに合わせた食事形態、水分量の確保に努め、安全に食事が取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には口腔体操をいっしょにし、食後にはお客様の状態に合わせた口腔ケアを行っている。誤嚥しやすい方は飲水前、食前にも口腔スポンジを使用し、対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導、布パンツでの生活に取り組んでいる。温かいタオルでの清拭、陰洗に務めている。排泄能力が低下して見える方でも現状が維持できるよう支援していきたい。	利用者の排泄支援状況は、排泄チェック表に記録し、一人ひとりの支援方法を検討している。トイレやポータブルトイレを使用し、座位による排泄の支援に取り組んでいる。職員の声掛けやこまめなケアによって、布パンツで過ごすことができるようになっており、利用者の排泄の自立に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の水分摂取に牛乳を提供したり、ひとりひとりに応じた排泄パターン、水分量に配慮し予防に取り組んでいる。毎日体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が基本で行っている。ひとりひとりの好みの温度に配慮し、ヒートショックなど起きないように室温の安定保持に務めている。季節に応じて花湯やみかん、ゆずを用いて楽しんで頂くよう取り組んでいる。	各ユニットでは、午後からを入浴時間として、全ての利用者が毎日入浴している。体調が悪かったり、入浴拒否があれば無理強いせず、別日に声を掛けている。利用者が浴槽にゆっくり入れるよう、個々の入浴習慣に合わせた支援を行っている。季節の湯や好みの湯温など、職員との会話が弾む一時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に寄り添った休息の支援を行い、室温の調節、寝具の調整、照明の調節にて安眠できるようにしている。日中活動を増やし昼夜逆転しないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はお客様の疾患を理解たうえで薬の内容を把握し服薬対応に取り組んでいる。服薬時は服薬ファイルを用いて、名前、個数を確認の為読み上げ、誤薬防止に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ、新聞折りなど毎日お客様の力量に応じた役割、楽しみを見出せるよう支援している。地域的な懐かしみのあるおやつ、季節を感じさせるおやつなど提供し当時の思い出、エピソードトークに花を咲かせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様、ご家族様の希望で支援している。コロナ禍により外出は減っているが近隣の散歩、神社の参拝など支援している。	職員は、利用者の体調に配慮し、天候を見ながら事業所周辺の散歩に同行している。花見や神社参拝など、5類移行後から少しずつ外出の機会を増やしている。また、家族の協力を得ながら、自宅への帰宅や法事への参加など、利用者の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の希望に応じて買い物をしてきたり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に寄り添い電話で話したり、年賀状、手紙を書く援助など支援している。家族より電話あればお話できるようにしている。コロナ禍もあり携帯のテレビ電話を用いたりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、リビングなど季節を感じていただけるよう壁紙、飾り付けを毎月行っている。室温、湿度の調節はこまめに行い、寒さを感じる方はひざ掛けをもちい、配慮に心がけている。	リビングは、窓辺の植木鉢や生花を飾り、色彩豊かな環境であり、利用者が集い寛いでいる。キッチンで職員が調理する様子があり、利用者も野菜の皮むきを手伝うなど家庭的である。また、日々の様子を撮った表情豊かな写真や季節ごとの壁画、習字の作品を飾っている。廊下など各所掃除が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の落ち着いた場所でテレビを見たり本を読んだりしている。また気のあった方同士で談笑したりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置いたり、ご仏壇を置いたり、使用していた家具を使ったりご自宅に近い雰囲気でも過ごせる工夫をしている。ご家族の写真飾られているかたもいる。	持ち込みに制限はなく、使い慣れた筆筒や椅子、テレビ、家族の写真を配置している。壁には、職員の利用者への思いがあふれる手作りの誕生日メッセージカードを飾っている。また、利用者に代わり、職員が仏壇に手を合わせたり、水を替えるなど、本人が安心して暮らすことができるよう、支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置など考え安全に生活がおくれるように工夫している。身体状況にあわせた環境作りをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291600122		
法人名	社会福祉法人 ガイアの杜		
事業所名	グループホーム あいりん 貳番館		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	令和 6年 2月 13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のつながりを人と人とのふれあいを大切に」との理念のもと、お客様、一人ひとりが笑顔で安心、安全に、その人がそのひとらしく生活ができるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を誰もが見える場所に提示し、共有して、つながり、ふれあいを大切にしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を大切にし、行事に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けた場合は、支援方法をアドバイスを行うようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防により、現在、運営推進会議を行っていない状態である		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あまり連絡を取りあっていない為、協力関係を築くよう積極的に行動を行っていききたい		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、身体拘束をしない取り組みを行うケアを心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待、身体虐待が行われないよう注意し、ミーティングの時などに話し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて権利擁護について学んでいるが、きちんと理解できているか自信がないので、今後、活用出来るよう取り組んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定があった場合、説明を行い、その際、疑問、質問など尋ね、理解、納得をしていただくよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様、ご家族様との関わりの中で、出てきた意見や要望は、上司の伝え、運営に反映できるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時にもだが、日常でも意見、提案などを聞いて頂いている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握し、やりがいや向上心をもてる職場になるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修は少なくなっているが、内部研修が行われ、実践につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部の研修などが減っており、交流があまり出来ていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しいお客様は、特に何に不安を感じているか伺えるよう話を聞く時間を設け、安心出来る関係性が出来るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面会し、不安や要望などを聞いたりし、信頼関係が出来るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報を元し、会話をし本人様、ご家族が必要とされている事を見極め、対応出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間の中で、出来る事出来ない事を把握し、出来る事を他のお客様とも楽しく行えるように心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況を報告したり、本人様の意思を伝えるなどし、情報の共有を行い、ご家族に出来る事はお願いして、共に支える関係を築くように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カトリックの方に神父様が来館されたり、知人の面会など馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様が出来る事を他のお客様と一緒に 行ったり、一人になりがちな方には、他の方 と関わりが持てるように間に入ったりして、 共に生活出来るよう支援するよう努めてい る		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係性を大切にし、必要な時は状 況を聞いたり、相談を受けるように努めてい る		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で、思いなど把握できるよ うに勤め、本人様の希望、意見が聞かれた 場合は、希望に添える対応が出来るよう 話し合い、支援を行えるようしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を元に生活歴など把握したり、お 客様との関わりを持ち、その中で馴染みの 事や物を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	日々のお客様の状態、状況に関わりを持つ 事で把握し、共有するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	お客様の变化や課題などミーティングで話し 合い、アイデアや意見を出し合い、その方 にあった計画を作るように心掛けている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	日々、個人カルテを記入し、気づいた事や 変化があった時などは連絡ノートで情報を 共有し、介護計画に活かせるようしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や状況にあったサービスが出来るように話しあい、支援ができるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの生活歴を把握する事で地域資源も把握し、日々、楽しく生活出来るように心掛けて支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様の体調を把握し、状況に応じて、受診を行ったり、又、お客様、ご家族の要望に応じて、適切な受診を受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にお客様の変化などを報告や相談して、適切な受診が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーなどの情報提供を行い、又、ケアマネを通して、早期退院が出来るように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族と話し合い、今後の方針や終末期のあり方を決め、共有し、支援する出来るように取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の際の対応を話しあってはいるが、きちんと対応出来るか、不安があるので、実践力を身につけるよう取り組んでいきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練を実施し、未然に防ぐ為、自主防火点検を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様を尊重した言葉かけを心がけ、言葉かけが悪いと感じたり、慣れ合った言葉かけが聞かれた場合は職員同士で注意しあうようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様が意思や希望には耳を傾け、それに添った対応が出来るように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添った過ごし方が出来るように心がけてはいるが、急な外出の希望などには、こちらの都合に合わせてしまう為、注意していきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様、それぞれの要望に合わせた身だしなみ、おしゃれが出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の好みに合わせたり、喜んでいただけるよう工夫するよう心がけている。一緒に調理手伝いをして頂いたりしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態・状況にあった食事量、水分量を考え、支援するように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様に出来る事はして頂き、不十分になっている口腔ケアをお手伝するようにしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて、トイレ誘導を行うなどの支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、その方にあった食事量、水分量に変更したり、個別リハなどに運動を行うようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様の好みに合わせたお湯の温度にしたりして、楽しく入浴が出来るように心掛けている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせた休息を取り入れながらアクティビで体を動かすなどの活動を行うよう心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は状態に変化がないか観察を強化するように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の楽しみごとや出来る事を活かしながら、日々を過ごせるよう考えて支援するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出支援と行ったり、ご家族の希望があった場合などは希望に添って、外出支援が出来るように支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の希望に応じて買い物の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の要望に応じて、電話したり、ご家族から贈り物があった時などは、本人様に言葉かけし、電話が出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた居心地良い空間づくりを心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、又、気の合ったお客様同士が居心地良く過ごせるように席のセッティングを変更するなどの工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様の使い慣れた物を置いたり、ご家族からのプレゼントを飾ったりし、居心地良く過ごせるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に怪我をしないようにし、出来る事を活かしながら、生活出来るように心がけている		